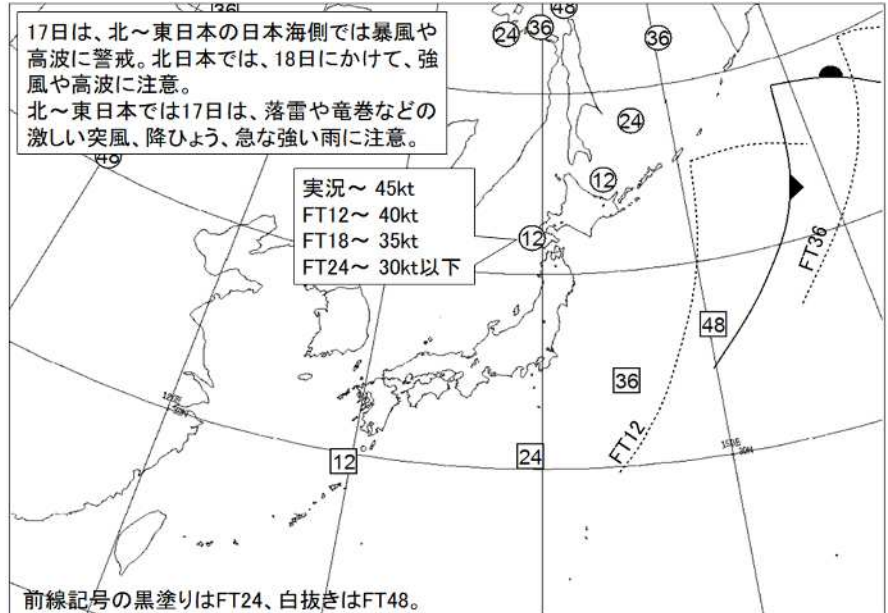


1. 実況上の着目点

- ① 日本海に500hPa 5400m以下で-21℃以下の寒気を伴う寒冷渦があり、対応して発達した低気圧が最大風速 45kt [GW] 級で北東進。低気圧からのびるシアラインが北日本を通っている。低気圧やシアラインの近傍では対流雲が発達して発雷し、20mm/h 程度の強い雨を解析。
- ② 前線が日本の南から日本の東を通って千島の東にのびている。
- ③ ①や②の低気圧や前線と東シナ海から東へ移動する高気圧との間で、気圧の傾きが大きくなっているため、北～東日本では非常に強い風が吹いて、波が高くなっており、大しけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の寒冷渦は17日は北東進し、日本海から北日本を通過してオホーツク海へ進む。対応する1項①の低気圧は、勢力を弱め17日朝までに不明瞭となるが、別の低気圧がオホーツク海で発生し北東へ進む。低気圧近傍では、上空の寒気や湿った空気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北～東日本では17日は、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ② 2項①の低気圧と1項③の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなるため、北～東日本では、強い風が吹いて、波が高くなる。特に日本海側では非常に強い風が吹いて、大しけとなる所がある。17日は北～東日本の日本海側では暴風や高波に警戒。北日本では18日にかけて、強風や高波に注意。
- ③ 18日から19日にかけて、500hPa 5820m 付近で-12℃以下の寒気を伴ったトラフが東シナ海から西日本に進む。また、19日は1項③の高気圧の縁を回る850hPa θ_e 336K 以上の下層暖湿気が西日本の太平洋側に流入する見込み。このため、19日は西日本では大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある見込み。落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。なお、トラフや下層暖湿気の動向には不確実性があるため、今後の資料に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(06時からの24時間): 高い所(100mm以上)はないが、2項の短時間強雨に注意。②波浪(明日まで): 東北・北陸6、北海道5、関東4、伊豆諸島・東海・近畿・中国 3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。